

## 第4回「池袋の路面電車とまちづくり」シンポジウムのご報告

### - オーストリアのLRT及びその路盤技術の紹介 -

池袋の路面電車とまちづくりの会

平成17年5月27日に、オーストリア大使館商務部と共催、交通ビジネス研究会が協力、豊島区と「としま未来文化財団」が後援で、オーストリアのLRT及びその路盤技術の紹介を主眼に、池袋LRT構想の実現に資すべく当会としては第4回のシンポジウムを開催した。オーストリア関係者を含めて約150名の参加を得、池袋LRTへの注目の高さを印象付けた。

#### 1. 現地視察 (10:00~11:30)

オーストリア及び池袋の関係者約30名で、池袋駅<徒歩> 雑司ヶ谷駅<都電> 早稲田<都電> 東池袋四丁目<マイクロバス> サンシャインルートの行程により現地を視察した。オーストリアの専門家から以下の意見を受けた。

- ・これだけの人の多さとLRTを通せる空間(広幅員道路)があることから、実現可能性は高い
- ・LRTにより池袋の魅力を高められる、区長を筆頭に夢を持って取り組むべき
- ・都電と連携した池袋と早稲田方面との結節を考慮すべき

#### 2. シンポジウム第一部 (13:00~14:30)

豊島区の鈴木都市計画課長と高野区長が池袋LRT構想を説明し、グラーツ工科大学のリースベルガー教授とウィーン公共交通のフィッシュマイスター技術部長がウィーンの路面電車やその技術を紹介した後、4名によるパネルディスカッションを行い、以下のような紹介・議論がされた。

- ・ウィーンには路面電車が200km以上あり、地下鉄・バスと合せて公共交通のみで便利に移動できる
- ・オーストリアの軌道技術は制振・騒音防止に優れ、池袋のような人口密集地域に好適

#### 3. シンポジウム第二部 (14:50~16:10)

オーストリアの路盤・レール・制振材料等のメーカー5社が技術プレゼンテーションを行い、ヨーロッパのLRTにおけるシェア80%を誇る最先端技術の紹介を受けた。LRTと言うと車両に目が行きがちだが、それを支える“縁の下の力持ち”の重要性を認識できた。

#### 4. ワークショップ (16:30~18:00)

現地視察及びシンポジウムを受けた上で、オーストリア及び池袋の関係者約40名で交通計画及び技術に関する意見交換を行い、以下の議論がされた。

- ・LRTは、利用者・区民にとって便利なもの、役立つものでなければいけない
- ・他の公共交通との乗継ぎ利便性・共通運賃といったハード・ソフトのネットワーク形成が重要
- ・制振軌道の有効性を理解するには、試験敷設して沿線の人に経験してもらうのが良い